

令和 6 年 6 月 20 日現在

機関番号：14301

研究種目：挑戦的研究（萌芽）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K21761

研究課題名（和文）ビルドゥングスロマンと「女性の生き方」の表象に関する比較文化社会学研究

研究課題名（英文）'How Woman Live' in Bildungsroman : a comparative sociology of cultural representation.

研究代表者

稲垣 恭子 (Inagaki, Kyoko)

京都大学・教育学研究科・名誉教授

研究者番号：40159934

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 4,900,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、NHK朝の連続テレビ小説（朝ドラ）を対象として、「女性の成長」がどのように捉えられてきたかを、ビルドゥングスロマンという視点から分析・考察した。その中で、（1）女性の成長にとって、自立に向かう内面的格闘よりも他者との関係性やネットワークの形成が重要な意味を持つこと、（2）視聴者にとっては、主人公の成長を見守ることで自らの仕事や生活を肯定的に見直す（温める）機能があること、（3）社会的な成功よりも自分の価値観や生きかたに自信をもつことが成長の核として描かれていることなど、現代社会における成長の意味を考え直す上で示唆的な知見が得られた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

（1）男性を中心とする成長物語（ビルドゥングスロマン）とは異なるもうひとつの成長モデルとしての女性のビルドゥングスロマンという視点の新しさ、（2）長期にわたって女性の生き方を描いてきた朝ドラを分析対象にすることによって、「女性の成長と自己形成」の変遷を社会的背景のなかで描出できること、（3）ポスト近代社会における自己形成や「成長」の意味を新たな視点から探究したこと等が、学術的意義である。研究成果によって得られた知見は、現代社会における子どもの成長過程で経験する失敗やその乗り越えかた、他者との関係のつくりかたなどを見直し、教育への具体的な示唆につながることなどの社会的意義がある。

研究成果の概要（英文）：This research analyzes how women's growing up has been perceived, from the perspective of 'Bildungsroman', focusing on NHK's Morning Drama series (Asadora). The results are as follows: in the dramas, building good relationship with others is important for growing up rather than internal struggle, for audience, watching over the female protagonist's 'grow up' provides the opportunity to reflect their work and lifestyle, and The core of 'grow up' is not to be successful but in finding own values and confidence. These findings are suggestive for reconsidering the meaning of grow up in contemporary society.

研究分野：教育社会学

キーワード：女性の生き方 ビルドゥングスロマン 連続テレビ小説

## 1. 研究開始当初の背景

近代社会における自己形成の物語(ビルドゥングスロマン)は、主に男性の自己形成をテーマとした教養小説か学生小説のなかで描かれてきたが、こうした成長物語は近代社会の揺らぎとともに終焉しつつあるといわれる。一方、女性の自己形成については、知識人・作家の自伝的小説や女学生小説などがあるが、男性のビルドゥングスロマンとの違いを視野に入れた社会的な研究はほとんど行われてこなかった。研究代表者は女性の教養文化の研究を進めるなかで、女性の自己形成や生きかたがどのように表象されてきたかについてさらに研究を進めたいと考え、本研究をスタートした。

その際、分析の素材としてNHK朝の連続テレビ小説を取り上げることにした。朝ドラは、戦後半世紀にわたって放送され、広範に人気を集めてきた「国民的ドラマ」である。作品の多くは女性の一代記を主題とすることから、さまざまな女性のライフコースのありようを提示し、女性の生きかたのモデルやそれらをめぐる論争を提供してきた。朝ドラを対象にした先行研究としては、視聴率をめぐる要因分析やヒロインのジェンダー役割に注目した研究があるが、必ずしも女性の成長に焦点をあてたものではない。そこで本研究では、戦前・戦後を通して女性の生きかたを描いてきた朝ドラを対象として取り上げ、ビルドゥングスロマンという視点から独自の分析を行うこととした。

## 2. 研究の目的

本研究は、NHK朝の連続テレビ小説(通称 朝ドラ)を素材として、日本において女性の成長や生きかたがどのように表象されてきたかについて、特にビルドゥングスロマン(自己形成物語)という視点から分析・考察することを目的としている。

ビルドゥングスロマンは、主人公の地理的移動、それに伴うさまざまな出会いや困難との格闘、その乗り越えと成長の過程を描いた物語(小説)である。ゲーテの『ウィルヘルムマイスター』などがその典型といわれるように、社会との葛藤のなかで内面的に成長する過程が中心となっている。

本研究では、男性を中心としたビルドゥングスロマンとは異なるもうひとつのビルドゥングスロマンの系譜として、日本における女性の成長物語を取り上げ分析することによって、女性の成長の意味を考察すると同時に、近代的な自己形成のあり方を問い直し、現代における「成長」の新たな意味や可能性について考察することを目的としている。

## 3. 研究の方法

- (1) 理論枠組の設定：国内外のビルドゥングスロマンに関する先行研究(文学、教育学、歴史社会学)を精読すると同時に、朝ドラに関する先行研究をレビューし、本研究における理論枠組・分析枠組を設定した。欧米の教養小説、日本の学生小説について、軸となる男性の成長過程の描かれ方の特徴を整理すると同時に、女性知識人の自伝的な教養小説についても比較検討し、日本における女性の成長過程をとらえる視点と理論枠組を検討した。
- (2) データベースの作成：初期(1960年代)から近年(2010年代)までの朝ドラについて、女性主人公のプロフィール(生年、没年、主な居住地、家族構成、教育歴、職業等)、ドラマの時代設定、放送年、視聴率、脚本等)のデータベースを作成し、いくつかの視点から分析・考察を行った。朝ドラの成立時の状況とその後の展開、メディア史の視点から見た朝ドラの特徴、朝ドラにおける女性主人公の特徴等について考察した。
- (3) 作品分析：2000年代以降の人気ドラマのうち、高視聴率を得た2作品(『あさが来た』(2015年下期)『ひよっこ』(2017年上期))について、内容分析を行った。
- (4) 視聴者インタビューの実施：(3)で取り上げた2作品について、視聴者インタビューを実施した。インタビュー対象としたのは、2作品を視聴した20歳代から30歳代の女性12名で、「上京して働いている」(6名)「首都圏で育ち首都圏で働いている」(6名)「上京して首都圏の大学・専門学校に通っている」(6名)に対して、3回のグループインタビューを行い、その結果を分析・考察した。
- (5) 朝ドラ制作者へのインタビュー及び講演会の実施：朝ドラを担当したNHKプロデューサーに、制作側の視点についてインタビューを行った。それを基に、「朝ドラのウラ側と成長物語」というタイトルでの講演会を実施し、実際の制作プロセスの詳細について貴重な内容を聞くと同時に、パネルディスカッションにおいて朝ドラにおける成長をめぐる議論を行った。
- (6) 全体の総括：以上の方法により進めた分析結果を取りまとめ、研究全体の知見の総括を行った。

## 4. 研究成果

本研究では、女性の生きかたと成長をめぐる表象を明らかにすることを目的として、ビルドゥ

ングスロマンという視点から実証的に研究するための理論枠組、分析枠組を設定し、朝ドラを具体的な素材として、量的・質的な分析を行い、その特徴について考察した。以下にその成果について簡単にまとめる。

- ( 1 ) 朝の連続テレビ小説はラジオ小説のスタイルを引き継いで始まり、最初は必ずしも女性の成長を描くものではなかった。1966年に放映され大ヒットとなった『おはなはん』以降、女性の成長や自立をテーマとした作品が主軸となった。これ以降、社会的背景と対応しつつ、ドラマのなかで新しい時代の女性の職業や生きかたが提示される啓蒙的な側面をもつようになった。
- ( 2 ) 1960年代～1970年代の高視聴率の時期から、1980年代後半～1990年代には視聴率が低下するが、2000年代以降、視聴率が回復しつつある。2000年代以降の高視聴率作品の内容分析からは、女性の成長は、必ずしも社会的、世俗的な成功と結びついた描かれ方ではなく、家族や他者との関係のなかで自らの価値観に基づいて生きる道を見出すことに重点をおいた描かれ方が特徴となっている。
- ( 3 ) 朝ドラ視聴者へのグループインタビューの結果からは、以下のことが見出された。  
\*朝ドラを成長物語として受け止めて視聴しているが、自分自身のロールモデルとしてというよりもやや距離をおいた見かたをしており、ドラマや主人公に対しては適度な没入といえる。  
\*主人公の成長について、大きな出来事よりも日常の小さな出来事やディテールのなかでその兆しをよみとろうとする傾向がみられる。厳しい試練や大きな困難との格闘だけでなく、人との出会いのなかで少しずつ価値観や生き方が変化することに共感をもって見ている。  
\*成功に向けて「煽る」文化ではなく、「温める」文化として受容されている。
- ( 4 ) 制作者へのインタビューからは、「朝ドラらしさ」を意識的につくっているわけではないが全体を通してみると共通したものはあること、1回15分で半期連続するドラマという特殊な構成のため、制作過程においては長期的視点と短期的視点の両方が必要となること等、制作側の視点や制作過程を知ることによって、( 2 )で行った内容分析と照らし合わせた考察が可能になった。
- ( 5 ) 本研究の成果は、日本教育社会学会において共同報告を行った他、朝ドラ100作記念のNHK放送文化研究所主催のシンポジウムで、朝ドラをめぐる多様な視点からのディスカッションを行った。また、他の研究資金の支援を得て、台北における視聴者インタビューおよび国際シンポジウムを開催し、国際比較研究の可能性も広げることができた。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 稲垣恭子	4. 巻 315
2. 論文標題 昭和初期の女子高等教育 良妻賢母主義と職業自立との狭間	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 『別冊 太陽』	6. 最初と最後の頁 32-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 稲垣恭子	4. 巻 -
2. 論文標題 「明治を生きた『武家娘』」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 二期会創立70周年記念公演『「蝶々夫人」』プログラム、公益財団法人東京二期会	6. 最初と最後の頁 34～38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 稲垣恭子	4. 巻 -
2. 論文標題 「令和時代の教育文化 コロナ禍の影響を強みに変える」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『学びの場.com』内田洋行教育総合研究所	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 稲垣恭子	4. 巻 No. 64
2. 論文標題 「連続テレビ小説と視聴者 シンポジウム編」（シンポジウム記録）、2020年1月、126&#12316;151頁	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『NHK放送文化研究所年報』	6. 最初と最後の頁 126-151
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹内里欧	4. 巻 20号
2. 論文標題 「成長なき時代の「成長物語」 NHK『連続テレビ小説』にみる 」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 研究紀要 教育・社会・文化	6. 最初と最後の頁 1-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 椎名健人	4. 巻 20号
2. 論文標題 「朝ドラ」草創期の風景 小説への意識と映像的課題の間で	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 研究紀要 教育・社会・文化	6. 最初と最後の頁 19-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 椎名健人	4. 巻 66号
2. 論文標題 知識人「漱石」から作家「漱石」へ 「木曜会」にみる師弟関係の構造と変容	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 京都大学大学院教育学研究科紀要	6. 最初と最後の頁 325-348
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 稲垣恭子他(藤田真文、鈴木謙介、矢部万紀子、若泉久朗)	4. 巻 No. 64
2. 論文標題 NHK連続テレビ小説と視聴者 シンポジウム編(シンポジウム記録)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 NHK放送文化研究所年報	6. 最初と最後の頁 126 ~ 151
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計9件（うち招待講演 3件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 稲垣恭子
2. 発表標題 大学と社会をつなぐ女性リーダー：育成と循環
3. 学会等名 京都大学経営管理大学院シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 竹内里欧
2. 発表標題 「参入」をめぐる戦略：フィンランドの女性知識人アイラ・ケミライネンを題材に
3. 学会等名 文と芸の社会学研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 稲垣恭子
2. 発表標題 「朝ドラと成長物語を考える」
3. 学会等名 『アスニー特別講義』アスニー京都（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 稲垣恭子
2. 発表標題 「学生気質は変わったかー読書・教養・ジェンダー」
3. 学会等名 『京都大学鼎会第1回顧問会』学士会館（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 濱貴子
2. 発表標題 「奥むめおの婦人運動における社会的ネットワーク形成」
3. 学会等名 第95回日本社会学会大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 竹内里欧
2. 発表標題 「「ポスト近代社会における『成長物語』のあり方」、その他」
3. 学会等名 「文と芸の社会学研究会」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 稲垣恭子（研究代表）、竹内里欧、濱貴子、井上慧真、佐々木基裕、花田史彦、椎名健人
2. 発表標題 「ポスト近代社会における「成長物語」 「連続テレビ小説」を手掛かりに 」
3. 学会等名 日本教育社会学会第71回大会（於大正大学）2019年9月12日
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 椎名健人
2. 発表標題 NHK連続テレビ小説草創期の風景 小説への意識と映像的課題の間で
3. 学会等名 日本教育社会学会第71回大会（於大正大学）2019年9月13日
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 椎名健人
2. 発表標題 「現代日本の若者文化」
3. 学会等名 京都大学国際高等教育院 Kyoto-iUP 台湾高校教員招へいプログラム特別講義(2019年7月)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 濱 貴子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 320
3. 書名 『職業婦人の歴史社会学』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	竹内 里欧 (Takeuchi Rio)  (40566395)	京都大学・教育学研究科・准教授  (14301)	
研究分担者	椎名 健人 (Shiina Kento)  (60838671)	京都大学・教育学研究科・助教  (14301)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	濱 貴子 (Hama Takako)		



7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------